



**学校生活の中心は授業。桃山中はお互いが学び合い
深め合う、充実した楽しい授業をめざします！**



『年を取ると若いころを思い出すと聞いたが本当だった。経験も知識も乏しかった私は授業づくりに悩んでいた。先輩から「授業で大切なことは子どもの内言を引き出すこと」と聞いたが意味が分からなかった。しかし徐々に「内言とは言葉になる前の気持ちの高まりのようなもの」と理解した。それならば内言の生まれる授業をしようと方向性が見えた。そこで当時の給料の4倍ぐらいしたビデオカメラを購入した。炭鉱跡が残っていた校区は、昭和の中頃までにぎわっていた。それを映像で再現し、子どもたちにふるさとの自信と愛情をもたせたい。そこで当時を知る方と山に入り、炭鉱跡を回った。雨が激しく山道で転んでしまったが、カメラはしっかり体で守っていた。学校で映像を見ると何も映っていなかった。再度1人で山に入り、何とかその映像を編集した。苦労もあったが映像を見る子どもたちの目は輝いていた。少しだけ子どもたちの内言を引き出せたと思った。体験や間接体験が子ども達の心を揺さぶる。住んでいる地域ならなおさら。教師としての努力の方向性がまた少し定まった気がした。』という内容でした。一生の内にこの様な先生と出会えた生徒は幸せ者です。実は私自身が40年前のその映像を見ながら目を輝かせていた一人です。まだエアコンがなかった時代、暑く密集した家庭科室で汗をかきながら、その暑ささえ忘れて夢中で見た映像と、横で自慢げに解説する若き先生の情熱的な授業が昨日の事のように思い出されます。今一度、教師の一番の本分は授業であることを忘れず、プロ意識をもって一期一会の心に残る授業をめざしてまいりたいと思います。【校長 糸本 康浩】

日 報 宇 部
平成30年 第145号(木) 発行所 宇部市教育委員会 発行 毎月27日 水曜日(国定休刊日)

1947年開校 桃山中80周年

多彩な人材輩出、地域の発展支える

桃山中(南本市)の開校は今年度、創設となる創立80周年を迎える。創立当初は戦災復興事業の一環として設立されたが、戦後復興を支え、地域社会の発展に貢献してきた。特に、多くの優秀な人材を輩出し、社会の各分野で活躍している。

「理想の学園を建設せん」
今も思っく初代 熊本校長の遺訓

熊本校長(右)の肖像画。熊本校長は、桃山中の前身である南中時代の校長として、学校の発展に尽力した。彼の教育理念は、現在でも学校に受け継がれている。

地域活動に

桃山中は、地域社会との連携を重視し、様々な地域活動を行っている。例えば、環境保護活動や文化祭などを通じて、地域住民と交流を図っている。

【8/27掲載】 桃山中80周年 宇部日報



【8/27掲載】 桃山中80周年 宇部日報



トークフォークダンスの参加申込はこのQRからできます！

詳細はHPでも。 <https://www.ube-ygc.ed.jp/myj/>

